

アマゾンの人々のための環境教育 —国際プロジェクト EDAMAZ とその価値—

生方 秀紀

北海道教育大学釧路校・理科教育

Environmental Education for the people living in Amazon: An International Environmental Project “EDAMAZ” and its value

Hidenori UBUKATA

Hokkaido University of Education, Kushiro 085-8580, Japan

Summary

An outline of an international environmental project “EDAMAZ Educación ambiental en Amazonia” in which researchers/educators of Canada, Bolivia, Brazil and Colombia have been collaborating is introduced for the first time to the environmental educators/researchers of Japan. The project has been holding clear and persistent objectives and strategies and has been conducted by the members with collaboration between the national coordinators of each country under a leadership of the project coordinator. The project has enjoyed a wide variety of cooperation from governmental and non-governmental organizations at diverse levels, e.g., those of United Nations, international, national, and local. The trainings were executed at two levels: one for leading researchers/educators and the other for local elementary school teachers, sharing consistent objectives and strategies. The environmental education of EDAMAZ has been conducted in the context of school within community. Various teaching materials were developed, many books/leaflets were published, and moreover documentation centers with system of long distance loan, all of which would have been a great help for the teachers attending long distance trainings. Several students obtained Doctor/Master degrees in the project. At the final stages, EDAMAZ published the results of evaluation of the project undertaken by organs both inside and outside the team. This project with all such characteristics will become a fine example for the improvement/development of environmental education in many countries of the world including Japan.

I. はじめに

「熱帯雨林の破壊」は木材資源問題、地球温暖化問題、生物多様性の問題と関連づけられながら、日本の環境教育において主役の一つを務めている。しかし、そこには「熱帯林地域に住む人々の生活や環境」という視点がほとんど見受けられない。私たち日本人は、知らず知らずのうちに先進国の論理に埋没した環境教育を行っているのではないだろうか。地球環境問題の真の解決には、開発途上国である熱帯林保有国において、その国の論理と抜き差しならぬ関係をもちながら営まれている、「現地」の人々の生活とその環境の只中で、フィールドワークや実践を展開している環境教育をよく知ることが不可欠であろう。このよう

な観点から、筆者は、2002年10月から2ヵ月間、世界最大の熱帯雨林をかかえるブラジルに赴き、各種の調査を行った。その調査の成果の一つとして、EDAMAZ という名称の、アマゾンを囲む南米3ヵ国とカナダの教育者・研究者が参加した国際的な環境教育国際プロジェクトの存在と、その活動内容についての知見が得られたので、その概要をここに紹介し、日本の環境教育関係者が学ぶべき点をいくつか指摘したい。

II. 調査方法

筆者は、2002年10月11日から12月7日まで文部科学省短期在外研究員としてブラジルに派遣された。主に、サ

ンパウロ州のサンカルロス市 (São Carlos) にある、サンカルロス連邦大学水生生物学教室に Alaide Gessner 教授のお世話で滞在した。そこで同教授をはじめとしたスタッフにインタビューを行い、ブラジルの自然環境や環境教育についての情報や意見の交換したほか、サンパウロ州内の自然生態系や都市生態系の視察を行った。同教室では、環境教育が専門の Haydée de Oliveira 教授と José dos Santos 教授とのインタビューからとりわけ得るものが多かった。また、Santos 教授に頂いた文献のリストの中に、アマゾンにおける環境教育を主題とした Sato (1999) の博士論文 “Educação para o ambiente amazônico” に出会った。Oliveira 教授の話から、Michèle Sato 氏は現在マトグロッソ連邦大学で教鞭をとっていることが判明した。その後、パンタナール湿原とアマゾンを回る筆者の調査旅行の途上で、同州の州都であるクイアバ市を訪れ、Sato 教授にインタビューする機会を得た。実践的な環境教育を行っている Sato 教授 (日系 2 世) とのインタビューは大変示唆に富んだものであった。また、別れ際には貴重な文献の恵みを受けた。このインタビューから、同教授がアマゾン地域における環境教育の国際プロジェクトである EDAMAZ の有カメンバーの一人として活躍していることを知った。この調査旅行では、他にパンタナール湿原とアマゾン熱帯林のエコツアーに参加して、自然環境や人々の生活ぶりを見たり、いろいろな博物館や研究所を訪問し、自然史やインディオに関する展示を見たり、研究者とのインタビューを行った。調査旅行終了後はサンカルロス連邦大学で更に文献検索・閲覧・複写を行ったほか、市内やジャカレイ市、リオデジャネイロ市の自然生態系、都市、農村生態系の視察や、博物館、研究所などを訪れての研究者とのインタビューを行った。帰国後、これらの文献に目を通したり関連ウェブサイト、とくに EDAMAZ (2003) の検索・閲覧を行った。

本文に入る前に、EDAMAZ の重要性を気づかせてくれた M. Sato 教授、EDAMAZ のウェブサイトからの写真転載を承諾された Lucie. Sauvé 教授をはじめ、在外研究中にインタビューに応じ、貴重な情報・意見を提供された方々にお礼申し上げる。

III. 調査結果

アマゾンの自然環境や環境教育について得ることの多かった在外研究であったが、本報告では「EDAMAZ」に絞って、その大要を紹介し、その後で、日本の環境教育から見たこの国際プロジェクトの特徴を指摘し、日本の関係者が学ぶべき点について若干の指摘を行う。以下、文章を「」で囲んだ部分は、同プロジェクトの公式ウェブサイト

(EDAMAZ, 2003) を直接引用した部分である (日本語訳は筆者による)。なお、このウェブサイトはごく一部に英語、フランス語、ポルトガル語の訳文が掲載されているが、大部分はスペイン語のみで記述されている。

1. EDAMAZ とは何か。

EDAMAZ について、まずその概要を、主として EDAMAZ (2003) の記述に基づいて紹介する。

(1) EDAMAZ の名称の由来

EDAMAZ: Educación ambiental en Amazonia (スペイン語: 直訳すると「アマゾン地域の中での環境教育」) は、アマゾン地域における環境教育のための国際協力プロジェクトである。このプロジェクトに参加する 4 カ国のうち 2 カ国がスペイン語を公用語としており、残る 2 カ国、ブラジルとカナダ (ケベック州)、もそれぞれ同じラテン語系のポルトガル語、フランス語を公用語としていることから、プロジェクト正式名称にスペイン語が採用されたものと思われる。

(2) EDAMAZ のメンバー

「EDAMAZ のプロジェクトに参加している教育研究機関は、カナダのケベック大学モントリオール校 (Université du Québec à Montréal) 環境科学教室、ボリビアのガブリエル・レネ・モレノ自治大学 (Universidad Autónoma “Gabriel René Moreno”)、ブラジルのマトグロッソ連邦大学 (Universidade Federal de Mato Grosso) 教育学部およびコロンビアのアマゾンニア大学 (Universidad de la Amazonia) である。」ケベック大学以外はいずれもアマゾン地域を分有する国々にある。

(3) EDAMAZ のスポンサー

「EDAMAZ は、カナダの政府機関である国際開発局 (CIDA) による助成を受け、カナダ大学協会 (AUCC) の協力と開発に関する大学連合プログラムの枠組みの中で推進されている。」

2. EDAMAZ の概観

(1) EDAMAZ の目的

「EDAMAZ のプロジェクトは、環境問題の解決のためと、調和を保ち責任を負うコミュニティーの開発にアマゾンの住民が批判的に参加することを促進する能力と価値観を開発することを目的とする。このプロジェクトのもう

一つの目的はこの分野における女性の役割を促進することである。

EDAMAZ のこの一般的な目的は、アマゾン地域の教育関係者の環境教育分野における専門性の開発に貢献する。」

(2) EDAMAZ のプログラム

「EDAMAZ のトレーニングのプログラムは、次の3タイプからなる。

- 1) 環境教育のプログラムの開発と実行の能力を養成するために、大学のチームの連続的なトレーニングのプログラムを作成し実施すること。
- 2) 環境教育のリーダー（教育実践者およびコーディネーター）のトレーニング（FAPEA）のための、大学におけるプログラムをデザインし、試行し、実施すること。とりわけ、学校と地域社会を結ぶ場所における教育的連携を重視する。
- 3) 初等学校の教師を対象とした環境教育のトレーニングのための遠隔トレーニング・プログラム(FADEA)をデザインし、試行し、実施すること。このプログラムは、地域社会の諸問題を解決するための調査および活動にかかわるプロセスに重点を置く。」

(3) 特有の方略

「EDAMAZ を特徴づける方略（プロジェクトを貫く方法）は次の4点である。

- 1) 環境教育におけるトレーニングのプログラムのデザイン、および教材の作成のための、大学のチーム間での共同研究。
- 2) 学校・地域社会を結ぶ場所への遠隔地貸出システムをとまなう文書センターの開発。
- 3) 教育学修士のための奨学金の助成：ケベック大学モントリオール校における地域社会教育分野。
- 4) とりわけ、EDAMAZ のプログラムに参加している様々な教育関係者の間、ならびに他の環境教育実践者の間の地域・国・国際の各レベルのネットワーク化、およびパートナーシップを促進するセミナーとワークショップの開催。」

3. EDAMAZ の組織の構造

(1) 国際的な調整

国際的な調整を担当しているのは、「EDAMAZ-ケベック」が置かれている、カナダのケベック大学モントリオール校教育学部カナダ環境教育講座であり、Lucie Sauvé 教授が総括コーディネーターを務めている。このほか、アシ

スタント・コーディネーター1名、テクニカル・アシスタント1名が補佐している。メンバーには、これ以外に、同校 地球大気科学教室の Arnel Boutard 教授、教育科学教室の Louise Langevin 教授、ケベック大学ハル校(Université du Québec à Hull) 教育科学教室の Lorraine Savoie-Zajc 教授が加わっている。

(2) 国別組織

アマゾン地域を巡る 3 国のそれぞれに、各国の EDAMAZ を代表する機関が置かれている。

- 1) EDAMAZ-ボリビア：ボリビアでは、ガブリエル・レネ・モレノ自治大学、およびアマゾン大学協会（UNAMAZ）が担当している。メンバーとして、経済科学教室の Amelia Mérida 教授、ノエル・ケンフト・メルカード（Noël Kempft Mercado）自然史博物館の Sandra Herrera 氏、教育科学コースの Róger Quiróz 教授、教育心理学の Juan Sanzetené 教授らが名を連ねている。このほか、専門技術者3名、アシスタント技術者2名の協力体制ができています。
- 2) EDAMAZ-ブラジル：ブラジルでは、マトグロッソ連邦大学教育学部が担当しており、学校教育・教育制度教室の Michèle Sato 教授が国コーディネータを務めている。メンバーには、Paulo Speller 学長、哲学教室の Josita Priante 教授、教育原理・教育哲学の Silas Monteiro 教授、遠隔教育センターの João Gomes 教授、クイアバ大学（Universidade de Cuiabá）地理学教室の Carlo de Musis 教授のほか、8名の研究者（大部分、教育学や公教育、行政学の修士）が加わっている。このほか、教育工学系のアシスタント技術者2名が協力している。
- 3) EDAMAZ-コロンビア：コロンビアでは、アマゾンニア大学教育学部が担当しており、社会科学教室の Salomón Calvache 教授が国コーディネーターを務めている。メンバーは教育学教室の Elsy Castillo 教授（1996-1999年の国コーディネーター）、数学教室の Clara Higuera 教授（準備期である1993-1995年の国コーディネータ）、社会科学教室の Hugo López 教授ほか1名（EDAMAZ 奨学生）である。

4. トレーニングのプログラム

「1993年以來EDAMAZボリビア、EDAMAZブラジル、EDAMAZコロンビアの大学チームは、これら3つの国のそれぞれにおいて、環境教育のトレーニング・プログラムの開発をすすめてきた。

- 1) この環境教育についてのプロジェクトに責任をもつ、大学のチームの継続的なトレーニングのプログラム、環境教育の開発者を対象としたトレーニング・プログラムの開発と運用である。
- 2) 環境教育実践のリーダーを対象としたトレーニングのプログラム (FAPEA)。農村部あるいは都市周辺部における、学校・地域社会の場における活性化や調整に主眼を置く。このプログラムは政府機関・NGO および地方自治体の教育部門の担当者を対象としている。
- 3) 初等学校の教師を対象とした、環境教育の職能開発のための遠隔トレーニング・プログラム (FADEA)。このプログラムは、日常の職業実践と同じ場所における、地域社会の諸問題を解決するための、調査・活動に参加するプロセスを通じたものである。

これら三つのプログラムは、反省的で批判的なアプローチに基礎を置いている。また、実践に反映できる実習を組み入れることや、トレーニング・参加および調査を互に関連させることで、実施のプロセスと結果が相互に内容を豊富にしあうような、相互作用をもたらす。この相互作用のメカニズムを通して、これら三つのプログラムは緊密に結び付けられる。このような見通しを持った全体的枠組みの中で、FAPEA と FADEA のプログラムが構築され、制度化される。これらのプログラムは、EDAMAZ に参加している大学において、しかるべき状況に応じて実行に移される。」

(1) EDAMAZ の大学チームの連続的なトレーニングのプログラム

「EDAMAZ の大学チームの連続的なトレーニングのメンバーは、社会的にも教育的にも多様な状況の中で研究している様々な学問分野 (教授学・社会学・経済学・哲学、など) の教員である。このトレーニングは、学習共同体が採用する方略の枠組みの中で発展する。共同研究の手法にのっとり、EDAMAZ のチームの教員・研究者は大学側の FAPEA と FADEA のプログラムの作成・試行・評価および実施のプロセスに参加する。同じ活動の中で相互学習のプロセスが問題となる。環境の科学・環境教育・成人教育学・交換のプロセス・プロジェクトの運用等におけるチームのメンバーの特別な能力は、集団への貢献という観点から評価され位置づけられる。多様な種類 (科学的・日常的・伝統的など) の知識の学際性・相補性は、トレーニングのこのプロセスにおいてたいへん優れた見通しを与える。現実への経験的なアプローチを意味する、学習共同体の選択を伴うならば、反省的な実践および社会的批判の見通しが、EDAMAZ の中で多様かつ特異的な方略に統合する。すな

わち、

- 1) 国際セミナー・ワークショップ: EDAMAZ の大学チームが実施する国際セミナー・ワークショップは、相互研鑽や共同研究、環境教育実践といった形態をとっており、その中では、カウンター・パート同士による批判的な討論や、一つひとつの行動や経験を共同で評価する作業、さらには EDAMAZ の展開についての研究などが行われる (Fig. 1)。
- 2) 国別のセミナー・ミーティング・ワークショップの実施: EDAMAZ プロジェクトに関連する、理論的・方略的な主題を深めるために、国別のセミナー・ミーティング・ワークショップが実施される。取り扱うテーマとしては、調査と環境教育・コミュニケーション・情報と環境教育・倫理学と環境教育・教育改革と環境教育・カリキュラムと環境教育などがある。各チームのメンバーはこの活動の準備と実行を順次行う。
- 3) 環境教育に関する文書センターの開発: EDAMAZ プロジェクトに参加する各大学において、環境教育に関する文書センターが開発される。チームは文書 (印刷物・視聴覚) の収集の方略を確立する。これは、FAPEA と FADEA のプログラムでの必要性に対応するものである。これらのセンターは、大学の図書館の中に組み入れられ、すでにシステムとして整備がなされ、実際に稼動して効果を上げている。遠隔地への貸出のシステムも用意されている。
- 4) 教材の開発と生産: FAPEA と FADEA のプログラムをサポートする、教材の開発と生産をしている。それらは、モノグラフ・教授ガイドブック・批判的な講義のガイドブック・版權・小冊子・雑誌などの形態をとる。
- 5) 普及用の教材 (印刷物および視聴覚) の発行: 4カ



Fig. 1 1997年にボリビアで開かれたEDAMAZの研究・研修についての国際セミナーの1シーン。©EDAMAZ.

国語による、プロジェクトの公式のプレゼンテーションを掲載した国際的パンフレット、トレーニングのプログラムのについてのプレゼンテーションを掲載した国別のパンフレット、情報誌、トレーニング・プログラムの活動の例示となる国別ビデオなどを多数複製し発行している。

- 6) 調査研究のプログラムの具体化：EDAMAZ のプロジェクトは総体として、多様な研究の活動を統合する共同的な研究開発のプロセスとして描くことができる。

それらの中には、そのメンバー（教員・博士課程・修士課程・専攻課程の学生）によって開発されたプロジェクトや、調査研究に関する国際的・国内的なイベントの開催や参加がある。

- 7) 環境教育についての国内・国際的なネットワークへの参加：これらのネットワークへの参加を通じて、教育や環境教育、地域と共同体の開発、そして環境にかかわる組織との連携や交流といったつながりを創出する。

大学 特徴	ボリビア： ガブリエル・レネ・モレ ノ自治大学	ブラジル： マトグロッソ連邦大 学	コロンビア： アマゾンニア大学	カナダ： ケベック大学モントリオ ール校
プログラムの担当 窓口	<ul style="list-style-type: none"> 人文社会科学部、教育科学コース 人文科学部の大学院および副学長と連携 	<ul style="list-style-type: none"> 教育学部学校教育学および教育制度教室 教育科学部、生涯教育部門 	<ul style="list-style-type: none"> 教育科学部、生涯学習部門 	<ul style="list-style-type: none"> 教育科学教室、環境科学研究所
研究のレベル	<ul style="list-style-type: none"> トレーニングの短期プログラム ディプロマのコース 	<ul style="list-style-type: none"> 教職および公開講座の研究プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> 専門コース 	<ul style="list-style-type: none"> 修士レベルの環境教育短期プログラム
ディプロマのタイトル	<ul style="list-style-type: none"> 合格証明書または参加証明書 環境教育のディプロマ 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育についての成果 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育および環境実践の専攻におけるプロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の修士レベルの研究の立証
研究の期間(時間)	365	375	135	405
内容のプラン	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題(理論, 実践, 方法) 環境問題を直視した環境教育(理論・実践・方法) 環境教育における教授活動(理論・実践・方法) 参加の研究と実践 参加の実践の系統化とサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の理論と実践の基礎 環境問題と解決の方略 教育方法の調整 研究セミナー 参加の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 入門セミナー 環境教育の理論と実践の基礎 環境：問題と解決の方略(アマゾンの状況) 環境教育における教授活動 環境教育の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育：理論と実際 環境教育：参加 環境問題と解決の方略
問合せ先	unamaz@bibosi.scz.entel.net.bo	misato@terra.com.br ed-amb@cpd.ufmt.br	equipoedamazcolombia@latinmail.com	sauve.lucie@uqam.ca

- 8) 評価のプロセスの具体化：トレーニングの各局面や開発されたトレーニングの各プログラムにおける、またこのプロジェクトの中間段階および終了段階における、形式・内容両面での評価である。それらの活動のそれぞれにおいて、各学期・各年度に総括と評価を

行う。

- 9) 環境教育の修士レベルにおける、短期プログラムへのEDAMAZプロジェクトのメンバーの参加：ケベック大学モントリオール校で実施している。このプログラムを構成する、これら三つのコースの活動は遠隔教

育に対応しており、そのプログラムは職業上の条件や EDAMAZ プロジェクトの中における各メンバーの役割に適応している。」

(2) 環境教育実践のリーダーのトレーニングプログラム-FAPEA

「環境教育実践のリーダー・コーディネーターを対象とした大学のトレーニング・プログラム (FAPEA) は、EDAMAZ プロジェクトに参加する各大学の中で創出されるが、その基本的な特徴は、次の一覧表の中に提示される。」

(3) 初等学校の教師を対象とした環境教育のトレーニ

ングのための遠隔トレーニング・プログラム-FADEA

「EDAMAZ に参加している大学における、初等学校の教師を対象とした環境教育のトレーニングのための遠隔トレーニング・プログラム (FADEA) は、農村部あるいは都市周辺の初等学校の教師を対象としている。FADEA の試行においては、大学のプログラムである FAPEA の中でトレーニングを受けた環境教育のリーダー・コーディネーターが教授法の面でのサポートを行う。それは FAPEA の枠組みの中で開発された教育方法を、環境教育の現場へ適用するプロジェクトを通して実現する。

1) 国別の FADEA の特徴：国別の FADEA の特徴は下の表に示される。」

大学 特徴	ボリビア： ガブリエル・レネ・モレノ 自治大学	ブラジル： マトグロッソ連邦大学	コロンビア： アマゾンニア大学
プログラムの 窓口	<ul style="list-style-type: none"> 人文社会科学部、教育科学コースおよびノエル・ケンプ・メルカード自然史博物館 ノルマル・エンリケ・フィノット(Normal Enrique Finot)高等研究所 UNAMAZ 	<ul style="list-style-type: none"> 教育学部学校教育学教室、教育制度教室 	<ul style="list-style-type: none"> 教育科学部、生涯学習部門 カケタ(Caqueta)州教師研修委員会、生涯教育部門
研究のレベル	入門および継続トレーニングのプログラム	教職および公開講座の研究プログラム	継続トレーニング
ディプロマの タイトル	修了証明書およびまたは参加証明書	環境教育の改良	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育のディプロマ 修了証明書およびまたは参加証明書
研究期間 (時間)	365	120	90
方式	遠隔授業、部分出席 <ul style="list-style-type: none"> 7回のワークショップでの学習 指導教員制 	遠隔授業 <ul style="list-style-type: none"> セミナーへの3回の参加 	遠隔授業、部分出席、1週間15時間の2%について教師が付き添いで指導
内容のプラン	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題の診断 環境教育の入門とプロジェクトの教育方法 教室のプロジェクトおよび部局のプロジェクトの改良と試行 参加のプロジェクトの系統化とサポート 	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育の基礎と環境におけるトピック 環境哲学と環境教育および教師トレーニング 環境教育における学習共同体およびコミュニケーション 地球憲章とアジェンダ21 環境の描写と環境教育 	学校での環境活動についての研究・活動のプロジェクトと、市民レベルの環境教育プロジェクトとの結合 <ul style="list-style-type: none"> 環境教育についての共同研究の進め方についての方略 相互関係のネットワークとしての環境 環境問題の解決と行動 環境教育における経験の系統化
問合せ先	unamaz@bibosi.scz.entelnet.bo	misato@terra.com.br ed-amb@cpd.ufmt.br	equipoedamazcolombia@latinmail.com

2) プロジェクトの具体例:「FADEA のプログラムにもとづく活動の枠組みの中で開発された, 学校・地域社会の場におけるプロジェクトの例は以下の通りである (ボリビア・コロンビア・およびブラジル) .」

「家庭ゴミの活動」, 「生活環境の整頓」, 「自然環境の保全と保護」, 「環境教育における意識形成のキャンペーン」, 「芸術作品と環境教育」, 「地域社会の祭典」, 「ディベート: 環境教育における学校と地域社会の連携」, 「環境教育の教材作成」, 「環境教育の科学的調査研究と文献調査」, 「生活環境の探求」, 「人道的な活動と環境教育」. 小学校における環境教育活動の様子を示す写真を Fig. 2 に示す.

5. 協力団体

「EDAMAZ のプロジェクトおよび各参加国における, 研究やトレーニングの開発・実践は, 国レベル・国際レベルでの共同研究者の壮大なネットワークを創り出した. このネットワークには, 次の二つの趣旨に賛同する政府機関・NGO が参加した.

1) 教育 (とくに環境教育) の開発. これは, 大学教員・修士・社会教育関係者, および他の社会的リーダーの



Fig. 2 コロンビアの小学校における環境教育の活動の 1 シーン. 落ち葉で堆肥を作っている. ©EDAMAZ.

職能開発, および研究が中心となる.

2) 地域社会を発展させていく上で生ずる, 社会的・環境的な問題を解決するための適切な方略の開発.]

(1) EDAMAZ への協力団体

EDAMAZ プロジェクト全体に対して多大な協力を行った団体は, 汎米大学機構 (OUI)・汎米遠隔教育協会 (CREAD) である.

(2) 参加各国における協力団体

- 1) ボリビア: ケア・ボリビア (CARE), アマゾン研究センター (CEAM, スペイン), ドイツ技術協力公社 (Cooperación Alemana), 教育省, サンタクルーズ市教育局, アマゾン情報システム, ほか.
- 2) ブラジル: 国連開発計画 (PNUD), ユネスコ, 教育省, ブラジル環境更新自然資源研究所 (IBAMA), 環境回復保全協会 (ARCA), 州の教育部門, 地方自治体のほか, 拠点大学であるマトグロッソ連邦大学のいくつかの研究所, など
- 3) コロンビア: 教育省の環境教育国家プログラム, コロンビア高等教育推進研究所 (ICFES), 市の社会開発文化問題担当部局および教育, 地域開発部局
- 4) カナダ: カナダ社会科学局 (CRSH), カナダ政府の夏期職業斡旋プログラム (Placement-Été) プログラム.

6. 栄 誉

EDAMAZ が外部から受けた表彰として, 2002 年にカナダ国際開発局からの「大学以前の学校と大学とによって実施された良質のプロジェクトに対する表彰」と, 2000 年 7 月のアマゾン議会の特別会合による支持決議「国際化と地域社会開発における優秀賞」とがある.

7. 出版物

EDAMAZ に関連する膨大な出版物のリストがウェブ上で公開されている. 簡単に紹介しておきたい. 詳しくは, 右の URL を直接参照されたい: <http://www.unites.uqam.ca/EDAMAZ/publicaciones.html>

- 1) モノグラフ: EDAMAZ 全体にかかわる書物・論文集 3 点 (Sauvé et al. 2000, 2001, 2002)
- 2) 教材用印刷物: 授業用ガイドブック・授業モジュールなど, 30 点 (1997~1999)
- 3) 論文: EDAMAZ の大学チーム員による研究活動の成果 23 点 (1996~2002)

- 4) 会議録：セミナー・シンポジウムの記録 14 点 (1995～1999)
- 5) 学位論文：博士論文 4 点 (1999～2002)、EDAMAZ 奨学生 3 名の修士論文 (1999-2001)、その他の修士論文 7 点 (1998～2001)
- 6) 報告書：セミナーの報告書 6 点 (1998～2000)、年度報告書 4 点 (1998～2001)、学期報告書 3 点 (1998～2000)、最終報告書 4 点 (2001)、内部評価報告書 8 点 (1998～2001)、外部報告書 3 点 (1998～2001)

IV. 考 察

以上はほとんどすべて、EDAMAZ の公式ウェブサイトからの紹介であったが、以下、日本の環境教育研究者の立場から見た EDAMAZ の内容・方法の特徴をまとめるとともに、日本の環境教育関係者が学ぶべき点をいくつか指摘したい。

EDAMAZ は、「南」の広大な地域を取り囲む 3 カ国と、その連携を支援する「北」の 1 国とが連携した国際プロジェクトである。とくにアマゾンのように広大で多様な地域は、一国から見た視点ではどうしても偏りが出るものであろう。3 国から研究者・教育者が集まることで、その問題が解決される。また、カナダという、アマゾンからは遠く離れた国からの参加・リードがあることで、グローバルな視点が付加され、このプロジェクトがアマゾンの内部に閉じず、全世界的に波及していくものにまで高まるという効果があったであろう。なお、参加各国は、いずれもラテン系言語を公用語としている国であるため、互いに母国語を話してもかなり意味が通じ合うというメリットを享受している。

EDAMAZ プロジェクトの運営面では、それぞれの国に拠点大学・拠点研究室・国別コーディネーターを置き、統制のとれたプロジェクトの運営が可能となっている。日本でも、東アジア各国や東南アジア・環太平洋地域の国々から集まる環境教育の国際シンポジウムや国際会議を開催したり、それに参加する機会が増加しているが、EDAMAZ のように継続性を持ち、一貫した方針・目的・方法を共有した国際プロジェクトは、筆者の知るかぎり日本周辺ではあまりみかけない。また、EDAMAZ では、総括コーディネーターを 1 国(カナダ)に置いて、全体を統括している。これは、プロジェクトの一貫性を維持する効果のほか、同様の複数の国の運営方式をとった場合に生じやすい、方向が分散してまとまりがわるくなることを避ける働きがあると思われる。

EDAMAZ は、各国政府機関・地方自治体・研究所など

の公的機関のほか、国際機関・先進国による ODA、国際・国内 NGO など、多くの団体・機関の支援をとりつけている。大学が広く地域や国、国際レベルの諸団体と広く連携している姿は日本の大学の人間にとっても参考になる。日本でも、最近、大学や研究所と地域社会、大学以前の段階の諸学校、民間団体と連携する動きが出ているが、EDAMAZ では、それが大規模かつ、継続的、そして国際的である点が目立つ。日本はこの点においても「途上国」であるといえよう。

EDAMAZ には、環境教育の内容として、単なる自然環境の保全ではなく、地域住民が責任をもち問題解決に参加することを通して調和のある地域社会を作っていく特徴がある。プロジェクトにおける具体的な環境活動の内容は、「家庭ゴミ」や「自然環境の保全」といった日本と共通のものも多く見られるが、「芸術作品と環境教育」や「人道的な活動と環境教育」など、幅広い内容が見られる。

中南米の環境教育は、自然環境を守れといったような、トップダウン的な号令を上から下へ押し付けていくものではなく、不自由な生活条件に置かれた人々を「解放」する方向性を持つ (Sato et al. 2000)。この点、日本の環境教育と大きな違いが見られる。なぜこのような違いが生じているかについては、別の機会に考察したい。また EDAMAZ においては、女性の参加・リードが目立つ。フェミニズムの運動が大きな位置を占めていることも、中南米における環境教育の一つの特徴である (Sato et al. 2000)。

プロジェクトの進め方として、EDAMAZ は、大学での開発研究によるトレーニング・プログラム作成、大学における環境教育のリーダー・コーディネーターのトレーニング、初等学校の教師を対象とした遠隔トレーニングの実施という、3つの明確なシステムが複合したプロジェクトであることが大きな特徴である。これは大学で単に理論的に環境教育を研究しているだけのもの(日本では多く見られる)ではなく、学校や地域社会における環境教育の開発・普及を実際に可能にするトレーニングまでを組み入れた、非常に実践的なプロジェクトであり、日本の環境教育研究者にとって学ぶところが大きい。

これらのプログラムを効果的なものにするために、EDAMAZ では、文書センター(遠隔貸出あり)や奨学金制度・人的ネットワーク・セミナー・ワークショップなどを創出している。これら一連の施策には大きなエネルギーが感じられる。研究のための研究ではなく、明らかに目的・方向性を持ったプロジェクトであり、その中にこれらのことがらが位置づけられているのである。日本でも環境教育がらみのセミナー、ワークショップはよく開かれるが、1 回限りのものが多く、参加者がそれぞれの主張を発表し、

討論と簡単なまとめがなされて終わりとするスタイルのものが目立つ。

EDAMAZ プロジェクトでは、国レベルでは、様々な分野の研究者・教育者がプロジェクトに参加しており、非常に広い視野のもとで環境教育の内容・方法が開発されている。また、研究者・教育者だけでなく、テクニカル・アシスタントなどもチームに加わっており、人的資源を最大限活用し、うまく分業がなされているように思われる。おそらく、このように基盤の整備・運営に携わる人もプロジェクトの目的に賛同し、積極的に参加しているのではないだろうか。日本の環境教育プロジェクトもそのようなものでありたい。

環境教育の研修も日本で広く行われているが、色々なレベルで個別に行われている印象が強い。それに対して、EDAMAZ では、リーダー・トレーニングと現場教師トレーニングを明確に分け、それらが相互に連携している。これらのトレーニングには、研究・実習・参加の要素がはいつており、単に受身に研修を受けるものではない。また、トレーニング参加者に参加証や合格証を出しているが、これは、参加への動機付けと終了後の自信や意欲につながるであろう。これらの技術的な面も大いに参考にしたいものである。また、プロジェクトを通して研究者（博士・修士号を取得）が育っているが、こういう現場との連携の場面で研究し、力をつけていくことは、とくに環境教育の研究では重要なことであろう。

プロジェクトの中で、モノグラフ・教授ガイドブック・批判的な講義のガイドブックなどの教材を開発・量産しているが、その旺盛で持続的なエネルギーは、目的が明確であることと表裏一体の関係をなしているように思われる。また、このプロジェクトは、進んで内部・外部評価をしている。自画自賛しがちな日本の環境教育のプロジェクトでも見習いたい。また、このプロジェクトはカナダや南米の政府機関により表彰されている。これは、環境教育を理念として示すのではなく、実践を通じて明らかに地域に貢献してきたことを証明するものであろう。

V. 引用文献

- EDAMAZ. (2003). EDAMAZ Educación ambiental en Amazonia.
<http://www.unites.uqam.ca/EDAMAZ/index.html>,
 Accessed in March, 2003.
- Sato, M., (1997). Educação para o ambiente amazônico. PhD thesis. Universidade Federal de São Carlos. (アマゾンの環境のための教育. サンカルロス連邦大学, 博士論文)

Sato, M. et al. (2002). Relatório Final EDAMAZ. Projeto EDAMAZ & UFMT, Cuiabá, 81pp. (EDAMAZ - ブラジル最終報告書)

Sauvé, L., Orellana, I., Qualman, S. (2000). La educación ambiental, una relación constructiva entre la escuela y la comunidad. Guía de formación e intervención en educación ambiental. EDAMAZ/Université du Québec à Montréal. ISBN 2-89276-181-6, 167 p. (学校と地域社会の間に構築される関係としての環境教育. 環境教育におけるトレーニングと参加のガイド). 筆者は直接参照していない。

Sauvé, L., Orellana, I., Qualman, S. et Dubé, S. (2001). L'éducation relative à l'environnement. École et communauté : une dynamique constructive. Montréal : HMH, 175 p. (環境教育. 学校と地域社会. 一つの動的構築). 筆者は直接参照していない。

Sauvé, L., Orellana, I., Sato, M. (Dir.) (2002). Sujets choisis en éducation relative à l'environnement. D'une Amérique à l'autre.- Textos escogidos en educación ambiental. De una América a otra.- Textos escolhidos em educação ambiental. De uma América à outra. Tomes I et II. Montréal: Les Publications ERE-UQAM de la Chaire de recherche du Canada en éducation relative à l'environnement. Université du Québec à Montréal. 385 p. (環境教育についての論文集. 一つのアメリカからもう一つのアメリカへ. 第1, 2巻)